

平成27年度 推薦入試試験問題(文学科 英語英文学専攻) 解答例

問1 (30点)

【採点のポイント】

- ・ 高校で学習する程度の語彙力, および日本語表現能力があるか。
- ・ 字数制限を満たしているか。
- ・ DCを的確に説明しているか。
- ・ アメリカとフランスの例を挙げ, 違いを的確に説明しているか。

【解答例】

DCとは, 自分が所属する文化の中で生活していくのに必要な暗黙のルールであり, 価値観である。私たちはDCを子どもの時に身につける。

文化によってDCは異なる。例えば, アメリカとフランスには異なるDCがあり, その違いは隣人とのつきあい方の違いに現れる。アメリカでは隣人は最も近くに住む, 何かと頼りになる存在であり, 親しい関係を築くことが重要であると考えられている。これに対してフランスでは近くに住んでいることが親しい関係を築く理由にならない。フランス人は隣人ではなく家族を頼りにする。実際, フランスでは家族は近くに住んでおり, 頼りになるものなのだ。(296字)

問2 (70点)

【採点のポイント】

- ・ 文章が論理的に構成されているか。
- ・ 高校で学習する程度の語彙力, および日本語表現能力があるか。
- ・ 字数制限を満たしているか。
- ・ 異文化理解について自分の考えが明確に述べられているか。
- ・ 具体例が示されているか。

【解答例】

現代の国際化社会において, 私たちは異文化理解ができると同時に積極的に異文化を受け入れる態度を培わなければならない。そのためにはどのようにしたらよいだろうか。私が初めてアメリカでホームステイした体験をふまえて, 異文化に気づき, 理解を深めるための注意点などを考えてみたい。

ホームステイ初日, 日常生活に早くとけ込めるようにとのホストファミリーの配慮で, 大型スーパーを見学した。私はありとあらゆる

る種類のパンが陳列されているコーナーよりも，片隅に置かれていたおにぎりを見つけてほっとしたのを鮮明に覚えている。アメリカに来てまで日本のおにぎりにほっとしたのはなぜかを考えてみた。確かに日本からアメリカに来たが，私自身の心が，アメリカ文化を受け入れていないのではないかと考え始めた。日本の価値観と行動様式のまま，アメリカ文化をみている自分に気がついたのだ。しかし，アメリカでの生活に慣れるにつれて，少しずつアメリカの食文化と日本の食文化の違いや良さをそれぞれ認識できるようになり，2つの食文化を意識せずに楽しむことができるようになった。

このように文化の違いに気づき，理解を深めるためには，自らの文化のものの見方にとらわれている段階から，さまざまな文化を相対的にみる段階に移るように心がけることが必要だと思う。(567字)